

令和6年度奈良県コミュニティ・スクール連絡会【市町村立学校(園)】実施報告

- 《日時》 令和6年8月26日(月) 14:00~16:15
《場所》 県立教育研究所 中講座室1 (オンライン開催)
《参加》 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を導入している市町村立学校(園)の管理職、地域連携担当教職員 計88名
《内容》 14:00~14:05 開会
14:05~15:05 講演「学校運営協議会の効果的な運営について」
文部科学省CSマイスター 香山 真一 氏
(岡山県青少年教育センター閑谷学校 所長)
15:25~16:10 情報交換・意見交流
「学校と地域が共通の目標を共有するために行っていること」
16:10~16:15 閉会

◆講演概要

「学校運営協議会の効果的な運営について」と題し、御自身の経験に基づいた具体的な事例を通し、学校と地域が共通の目標を共有する熟議について御講演いただいた。

【学校運営協議会における熟議について】

- 子どもたちの豊かな育ちと学びのために、学校運営協議会委員が当事者意識をもって行う対話のことである。

【児童・生徒の「学力」を伸ばすために】

- 「何ができるようになるか」という資質・能力を基盤とした「学力」、すなわち子どもたちが社会において生かすことができる能力を養う必要がある。そのために、「社会に開かれた教育課程の実現」が大切である。
- 単に知識・技能を養うのではなく、非認知的能力(学びに向かう力、人間性等)も学力に加えるべきである。
- 「総合的な学習の時間」は、子どもたちが自身の人生を探していくプロセスとして位置付けていくことが大切である
- 他県の事例として、教科の授業に学校運営協議会委員が参加し、子どもたちと交流することを通して、子どもたちは新たな視点をもって学びを深めていた。

【コミュニティ・スクールの充実】

- コミュニティ・スクールは、学校と地域を取り巻く課題解決のためのプラットフォームである。
- 学校運営協議会委員については、学校の「応援団」となるような方々を選んでほしい。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進するためには、地域と学校をつなぐ働きをする地域学校協働活動推進員等が重要になる。
- 学校の主役である子どもたちが学校運営協議会で意見を述べる機会を設けることも可能である。学校運営協議会の議題を整理する必要はあるが、大人を交えた熟議の機会を設けたりすることが可能になる。学校運営協議会に子どもたちが参画することで、子どもたちの主体的な態度を養うことにつながる。



◆情報交換・意見交流と全体共有

A~Pのグループに分かれ、「学校と地域が共通の目標を共有するために行っていること」について、各校における学校運営協議会の議題内容や学校教育目標や、その議題内容や学校教育目標を地域とどのように共有しているかという視点で情報交換・意見交流を行った。

《参加者の感想》

- 地域と学校の協働する場面が増えてきて、地域の方々には様々な役割を担っていただいているが、同じ目標を共有し「熟議」することを深めることができれば、さらに意義あるコミュニティ・スクールになっていくと感じた。
- 学校や地域がめざす子ども像を明確にして、学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有して活動に反映することの大切さがわかった。
- これまでも学校運営協議会を活性化させようと尽力してきたが、よりその気持ちが強くなりました。
- 意見交流では、各自自治体や地域によってその様子が違い、市街地と山間部でも差が大きいことがわかった。今後、この制度が子どもたちにプラスに働いていってくれるようさらに研修を深めたいと思った。

学校運営協議会制度について、理解できましたか。

